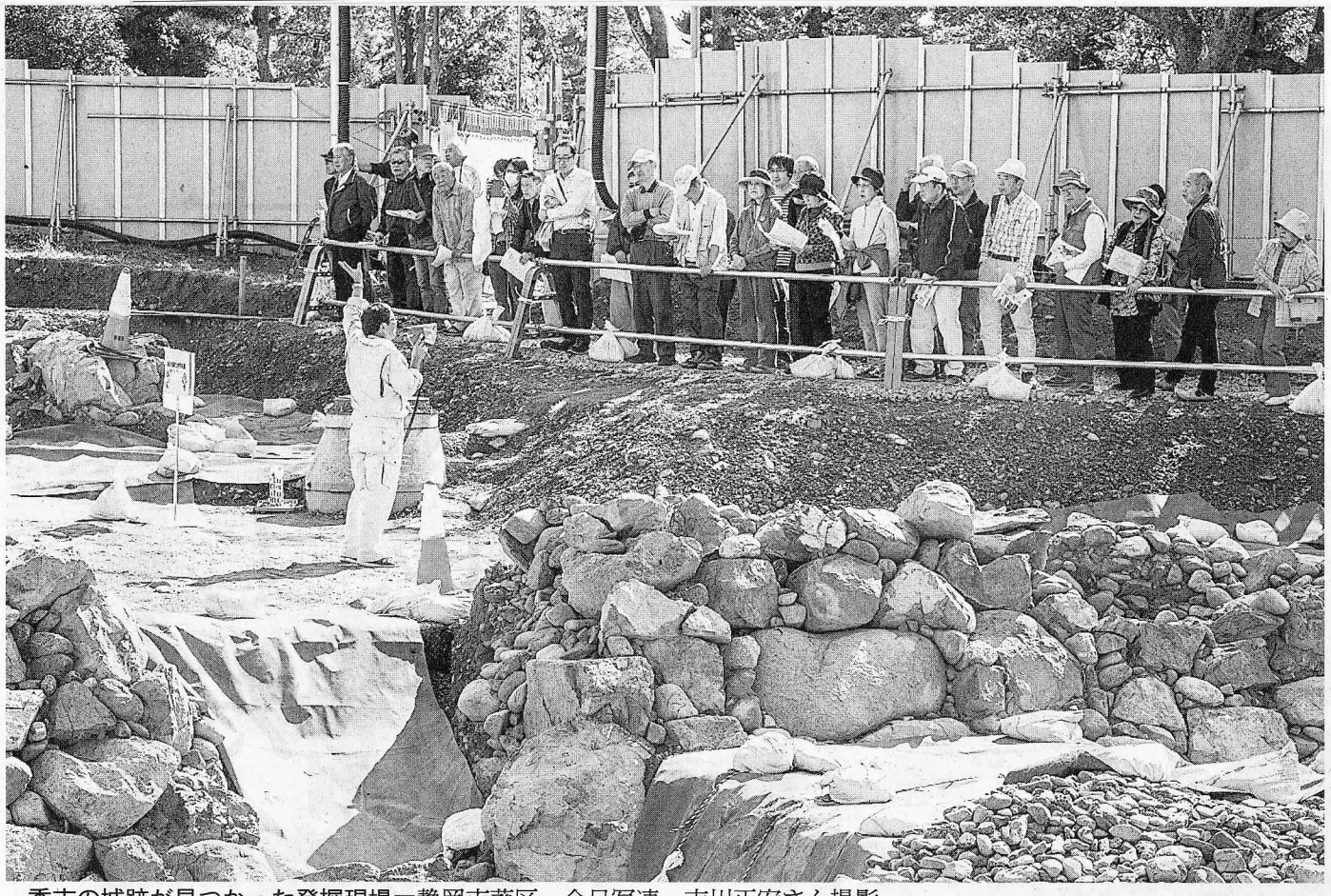
歴史的発見 輝く秋

静岡の今

静岡市にとって「登呂遺跡」以来の大発見です！記者会見で田辺信宏市長は興奮状態だったという。静岡市葵区の駿府城公園の発掘現場で歴史的な新発見があった。これまで「幻の城」と言われてきた豊臣秀吉が築城させた城跡が、徳川家康が築いた天守台の下から発見された、と16日に静岡市が発表した。新たに発掘されたおびただしい金箔（きんぱく）の瓦に、戦国史のロマンをかき立てられ驚きと興奮を禁じえなった市民も多い。駿府城公園と言っても、同公園に「駿府城」はない。家康が1610（慶長15）年に落成させた天守閣は25年後に焼失、再興されないまま今日に至っている。



秀吉の城跡が見つかった発掘現場＝静岡市葵区、全日写連・吉川正宏さん撮影

今回の歴史的発見で、静岡市は秀吉、家康という2人の天下人ゆかりの城跡がある名所となり、まちづくりは一段と活気を帯びてきた。同市の第3次総合計画（2015～22年）の目標は「世界に輝く静岡」。この目標に向かって六つのプロジェクトが進行中だが、その一つが「歴史文化の拠点づくり」。舞台は駿府城公園で、天守台の発掘が中核事業だった。金箔の瓦は「世界に輝く静岡」という総合計画全体のスローガンにイメージが重なる。

秋晴れの20、21日、新たな発掘現場が公開された。金箔瓦の公開は11月22日からだが、早くも2日間で6420人（同市調べ）が見学に押し寄せた。

発掘現場を背に昂然（こうぜん）と立つ家康像も突然急増したスマホ片手の見学者に驚いただろう。悠久の歴史とせっかちな文明の利器と。「駿府は変わる」と家康のつぶやきが聞こえる。

家康像の前で同市恒例の「大道芸ワールドカップ」（11月1～4日）が始まる。世界から集まる大道芸人のパフォーマンスが、同公園や街角で繰り広げられる。静岡市が「世界に輝く街」になる、一瞬の秋である。

（前静岡県監査委員　富永久雄）